様式３

令和７年度　教員資格及び教育内容等の自己評価書

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士の数	助手			
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科 理学療法学専攻	9 人	1 人	3 人	1 人	14 人	9 人	13 人	0 人	共通 21 人 専門 12 人	16.7 人	
計	9 人	1 人	3 人	1 人	14 人	9 人	13 人	0 人	33 人	－	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	９割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	８割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門基礎・専門）	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名（専任・兼任）
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	新入生入門セミナー	15	石黒　友康　他 リハビリテーション学科専任教員	専任
		心理学	8	中野　良哉	専任
		教育学Ⅰ	15	高岸　憲二	兼任
		医療と倫理	8	相澤　徹	兼任
		健康科学実践	15	片山　訓博	専任
		コミュニケーション論	8	石川　裕治	専任
		社会学	8	玉里　恵美子	兼任
		ジェンダー論	8	佐藤　洋子	兼任
		国際協力論	8	秋山　純和	専任
		ボランティア実践	15	秋山　純和 平松　真奈美 光内　梨佐	専任
		コミュニティ・コミュニケーション実践	8	池　聡	専任
		生物学	8	安藤　千速	兼任
		統計学	8	高地　正音	専任
		情報処理演習	8	高地　正音	専任

基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	情報リテラシー	8	高地　正音	専任
		英語	15	谷　富貴	兼任
		英会話入門	8	ショーン・バーゴイン	兼任
		中国語入門	8	前田　正也	兼任
		韓国語入門	8	金　美映	兼任
		日本語リテラシー	8	公文　素子	兼任
		生命倫理	15	相澤　徹 明﨑　禎輝	専任
		リーダーシップ論	8	栗山　裕司	専任
		地域課題研究Ⅰ	8	重島　晃史 笹村　聡 池　聡	専任
		地域課題研究Ⅱ	23	栗山　裕司　他 リハビリテーション学科専任教員	専任
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ（筋・骨格系）	15	中根　裕信	兼任
		解剖学Ⅱ（神経・内臓・脈管系）	15	中根　裕信 田中　健二朗	兼任
		生理学	15	渡部　嘉哉	兼任
		運動学	15	重島　晃史 笹村　聡	専任
		運動学実習	15	山﨑　裕司	専任
		運動生理学	8	秋山　純和	専任
		運動生理学実習	15	秋山　純和 石黒　友康 平賀　康嗣	専任
		人間発達学	8	中野　良哉	専任
		医学英語	8	上羽　由香	兼任
		運動生理学実習	15	秋山　純和 石黒　友康 平賀　康嗣	専任
		運動機能学実習	15	相澤　徹	専任

専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法運動学演習	15	山﨑　裕司	専任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	8	渡部　嘉哉	兼任
		内科学	15	田中　肇	兼任
		整形外科学	15	相澤　徹	専任
		臨床神経学	15	上村　直人	専任
		精神医学	15	上村　直人	専任
		小児科学	8	三宅　典子	兼任
		リハビリテーション医学	8	上村　直人　他 リハビリテーション学科専任教員	専任
		臨床心理学	15	中野　良哉	専任
		画像診断学	8	宮川　哲夫 上村　直人 相澤　徹	専任・兼任
		臨床栄養学	8	新谷　美智	兼任
		臨床薬理学	8	小野川　雅英	兼任
		救急管理実習	15	吉岡　邦展 中野　大智	兼任
	保険医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	石黒　友康	専任
		地域包括ケア論	15	川上　理子 森下　幸子	兼任
		チーム連携論	8	明﨑　禎輝 笹村　聡 上松　智幸	専任
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論	8	石黒　友康	専任
		理学療法概論演習	15	石黒　友康 柏　智之 宮﨑　登美子	専任
		理学療法基礎セミナー	8	栗山　裕司　他 理学慮法学専攻専任教員	専任

専門分野		理学療法セミナーⅠ (PBL)	8	宮﨑　登美子 柏　智之	専任
		理学療法セミナーⅡ (PBL)	8	明﨑　禎輝 宮﨑　登美子	専任
		臨床運動学	15	山﨑　裕司	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	8	田頭　勝之	専任
		理学療法管理実務	8	高芝　潤	兼任
	理学療法評価学	理学療法測定実習Ⅰ	15	稲岡　忠勝 栗山　裕治	専任
		理学療法測定実習Ⅱ	15	稲岡　忠勝 栗山　裕治	専任
		理学療法検査実習Ⅰ	15	片山　訓博 柏　智之	専任
		理学療法検査実習Ⅱ	15	片山　訓博 柏　智之	専任
		電気診断学	8	秋山　純和 山﨑　裕司	専任
	理学療法治療学	運動療法学	15	平賀　康嗣	兼任
		運動療法学実習	15	平賀　康嗣	兼任
		物理療法学	15	明﨑　禎輝	専任
		物理療法学実習	15	明﨑　禎輝	専任
		理学療法日常生活活動学	15	山﨑　裕司	専任
		理学療法日常生活活動学実習	15	宮﨑　登美子	専任
		内部障害理学療法実習	30	宮川　哲夫 山﨑　裕司 石黒　友康 明﨑　禎輝	専任
		中枢神経障害理学療法実習	15	和田　譲	兼任
		脊髄障害理学療法実習	15	栗山　裕司	専任

専門分野	理学療法治療学	運動器障害理学療法実習	15	岩﨑　洋 平賀　康嗣	専任
		発達障害理学療法実習	15	重島　晃史	専任
		老年期障害理学療法実習	15	田頭　勝之 明﨑　禎輝	専任
		義肢装具学演習	8	岩﨑　洋	専任
		理学療法技術実習Ⅱ（神経筋促通手技）	15	秋山　純和	専任
		理学療法技術実習Ⅲ（生体観察手技）	15	柏　智之	専任
		理学療法治療学実習Ⅰ（脳障害）	15	平賀　康嗣	専任
		理学療法治療学実習Ⅱ（ICU）	15	宮川　哲夫 片山　訓博	専任
		理学療法治療学実習Ⅲ（スポーツ障害）	15	森本　哲郎 山田　義久	兼任
		臨床理学療法技法演習（PBL）	8	重島　晃史 宮﨑　登美子	専任
	地域理学療法学	地域理学療法学	15	栗山　裕司	専任
		地域理学療法学演習	8	川渕　正敬	兼任
		生活環境支援理学療法実習	15	田頭　勝之	専任
		機能代償支援理学療法実習	15	岩﨑　洋	専任
		ヘルスプロモーション演習	8	片山　訓博	専任
	臨床実習	理学療法臨床実習Ⅰ	45	栗山　裕司　他 理学療法学専攻専任教員	専任
		理学療法臨床実習Ⅱ	180	栗山　裕司　他 理学療法学専攻専任教員	専任
		理学療法臨床実習Ⅲ	810	栗山　裕司　他 理学療法学専攻専任教員	専任
展開科目	展開科目	生涯スポーツ論	15	前田　和範	専任
		学校保健論	8	重島　晃史	専任

展開科目	展開科目	産業保健論	8	上村　直人 相澤　徹	専任・兼任
		企業論	15	濱田　美晴	兼任
		データ分析論	15	高地　正音	専任
		経営組織論	15	生島　淳	兼任
		マーケティング論	15	吉良　健司	兼任
		会計学総論	15	加藤　力	兼任
		経営管理論	15	生島　淳	兼任
		起業論	15	生島　淳	兼任
総合科目	総合科目	理学療法地域支援実習	15	栗山　裕司　他 理学療法学専攻専任教員	専任
		応用理学療法学演習	30	栗山　裕司　他 理学療法学専攻専任教員	専任
		理学療法総合演習Ⅰ	8	片山　訓博 明﨑　禎輝 柏　智之	専任
		理学療法総合演習Ⅱ	8	田頭　勝之 栗山　裕司 平賀　康嗣	専任
		理学療法総合演習Ⅲ	8	重島　晃史 宮﨑　登美子	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4

	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
理学療法の実践内容及び業務の見学・体験 理学療法療法実習Ⅰ	2年後期	リハビリテーション概論	1年前期
		理学療法概論	1年前期
		理学療法概論演習	1年前期
		理学療法セミナーⅠ（PBL）	1年後期
		理学療法セミナーⅡ（PBL）	2年前期
		運動療法学実習	2年前期
		物理療法学実習	2年前期
対象者の評価、結果の統合と解釈、その記録・報告等の理学療法評価過程の見学と実践	3年後期	理学療法評価学	1年後期
		理学療法測定実習Ⅰ	2年前期
		理学療法測定実習Ⅱ	2年後期
		理学療法検査実習Ⅰ	2年前期

理学療法臨床実習Ⅱ		理学療法検査実習Ⅱ	2年後期
		理学療法日常生活活動学	2年前期
		電気診断学	3年前期
対象者の評価、結果の統合と解釈、治療計画の立案と実勢、その記録・報告等の理学療法の一連の過程の実践 理学療法臨床実習Ⅲ	4年前期	理学療法評価学	1年後期
		理学療法測定実習Ⅰ	2年前期
		理学療法測定実習Ⅱ	2年後期
		理学療法検査実習Ⅰ	2年前期
		理学療法検査実習Ⅱ	2年後期
		電気診断学	3年前期
		臨床運動学	2年後期
		運動療法学	2年前期
		運動療法学実習	2年後期
		物理療法学	2年前期
		物理療法学実習	2年後期
		理学療法日常生活活動学	2年前期
		理学療法日常生活活動学実習	2年後期
		内部障害理学療法実習	3年前期
		中枢神経障害理学療法実習	3年前期
		脊髄障害理学療法実習	3年前期
		運動器障害理学療法実習	3年前期
		発達障害理学療法実習	3年後期
		老年期障害理学療法実習	3年後期
		義肢装具学演習	3年後期
		理学療法技術実習Ⅱ （神経筋促通手技）	3年前期
		理学療法技術実習Ⅲ （生体観察手技）	3年前期
		理学療法治療学実習Ⅰ（脳障害）	3年前期
		理学療法治療学実習Ⅱ（ICU）	3年後期
		理学療法治療学実習Ⅲ （スポーツ障害）	3年前期
		臨床理学療法技法演習（PBL）	3年前期
		地域理学療法学	2年後期
		地域理学療法学演習	3年前期

		生活環境支援理学療法実習	3 年前期
		機能代償支援理学療法実習	3 年後期
		ヘルスプロモーション演習	3 年後期
		理学療法管理学	3 年前期
		理学療法管理実務	3 年後期
通所・訪問リハビリテーション における理学療法の実践内容及び業務 の見学・体験 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 上記のいずれかで 1 単位（45 時間） 履修	3 年後期 4 年前期	リハビリテーション概論	1 年前期
		理学療法概論	1 年前期
		理学療法概論演習	1 年前期
		日常生活支援理学療法実習	2 年後期
		地域理学療法学	2 年後期
		地域理学療法学演習	3 年前期
		理学療法日常生活活動学実習	2 年後期
		運動療法学実習	2 年後期
		物理療法学実習	2 年後期
		老年期障害理学療法実習Ⅰ	3 年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
〇	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3

	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	内部質保証委員会
委員名（委員長）	（1）学長 （2）学部長 （3）教務部長 （4）学生部長 （5）図書館長 （6）国家試験対策部長 （7）学科長 （8）各専攻長 （9）事務局長 (10) IR 推進室長 (12) 学長が委嘱する教職員 委員長は、学長が指名する。
組織の開催頻度	毎月１回会議を開催
組織の取り組み内容	（1） 自己点検・評価の基本方針及び実施計画の策定に関する事項 （2） 自己点検・評価の実施ならびに報告書の作成に関する事項 （3） 内部質保証の基本方針に関する事項 （4） 内部質保証の体制に関する事項 （5） 内部質保証の仕組みに関する事項 （6） 内部質保証の推進に係る諸情報の活用に関する事項 （7） 認証評価及びその他第三者評価に関する事項 （8） その他、自己点検・評価に関する事項 （9） その他、内部質保証に関すること
自己点検・評価結果の公表	ＨＰで公表（URL：https://kpur.ac.jp/about/johokokai/）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	教務委員会
	委員構成等	教務部長、教務課長、学長が委嘱する教職員
	改善の仕組みの実際	シラバスの必要性、役割、作成方法等を記載した「シラバス作成ガイドライン」を作成し、シラバスが PDCA サイクルにおいて重要な意味を持つことを、科目担当教員に説明している。科目担当教員が作成したシラバスは、教務課ならびに教務委員長にて点検を実施し、不明瞭な点等が確認された場合は、修正のうえで公表する仕組みを取っている。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価及び第三者評価の結果について、全教職員で共有するとともに、内部質保証委員会において、課題を洗い出し、改善に向けた検討を行う。

検討結果については、必要に応じて運営会議や教授会において報告を行うとともに、具体的な取り組みについて協議を行い、改善に繋げていく。